



## 世界遺産 知床国立公園 木道 世界遺産の自然を守り、動植物との共生を図る・・・自然と共存する知恵を多くの動植物たちと分かち合う。

植物約 800 種、哺乳類約 30 種、鳥類約 260 種、魚類約 230 種の自然が残る「世界遺産知床」この世界遺産の自然を守り、動植物との共生のための木道と展望台です。来訪者の安全確保のために電気柵が設置され、野生動物と来訪者の間に安全な距離を保ち、原生植物の保護にも役立っています。

### ■ 木道の目的：環境保護・動植物との共生

知床は、ヒグマの生息密度が高い地域です。ヒグマの活動時期（5月～7月）には、来訪者の安全を守り、また、散策者の植物の踏み荒らしなどもなくなり、自然環境を保護し、地域の動植物との共生が行われています。

### ■ 木材活用：景観との共生・地域との共生

世界遺産の雄大な景観にとけ込み、景観を損なわない高架道の材質として、木材を活用しました。また、景観との一体化を図るために、景観内にある木と同じ木材を活用することとし、「北海道産、間伐材」を使用しました。地域の木材の活用による地域との共生、間伐材の活用により環境負荷の低減にも配慮しました。

### ■ 木材活用：鋼材にひけをとらない高耐久性木構造

木材活用：鋼材にひけを取らない高耐久性木構造とし、環境にやさしい防腐加圧注入を施し、耐久性を高めるために、柱材には圧縮加工を、製材にはインサイジング加工により注入性を高めています。その結果、景観と環境に配慮した高耐久性木材をつくりあげる事が実現しました。

### ■ バリアフリー：木材の材質としての柔軟性

この木道は、知床国立公園、知床五湖の周遊歩道のうち、一湖展望台までの 800m を地形の高低差（約 2m）からの段差を解消した、バリアフリーで利用できる木道です。この地盤の高低差を、バリアフリー対応のするやかなスロープとするためには、現地加工出来る木の材質としての柔軟性は、重要な要素となりました。

